

外部評価委員会結果記録書

令和 7 年 9 月 8 日作成

| | |
|-------|--|
| 評価年月日 | 令和 7 年 8 月 1 8 日 (月) |
| 評価の概要 | <p>1 令和 6 年度の EMS の取組結果について</p> <p>電力会社の排出係数によって、温室効果ガス排出量は大きく変わってくるが、係数だけではなく、それぞれの考えに基づいて契約している。今後、どう係数が変わるか分からないが、このままの契約方法で良いのか、検討しておく必要があると思う。</p> <p>教育庁において、紙媒体への移行という流れや、猛暑による熱中症対策もあり、複写機用紙使用量や電力使用量が増加している。増加傾向にあるものを減らしていくことは難しいと思う。裏紙利用や節電など、日々の活動の積み重ねが大切となるので、学校全体を巻き込んでいかなければならない。</p> <p>2 令和 6 年度の政府実行計画に準じた 5 つの取組結果について</p> <p>太陽光発電は、温室効果ガス排出量削減に貢献する一方、大量廃棄の問題やパネルの有害物質などマイナス面もあり、適切な処分方法も踏まえて長期的な対策をしないといけない。経年劣化もあるので、メンテナンスの費用など、色々な側面で考えていただきたい。</p> <p>費用対効果の面で、太陽光発電がどのくらい CO2 削減に寄与するのか計算したときに、再生可能エネルギーなど、費用が高くなっても CO2 の排出係数が少ないエネルギーを導入したほうが、太陽光発電を入れるよりも効果があるのではないかと思う。この辺りを今後、計算をしてもらいたい。ただ増やせばよいというわけではない。</p> |

評価の概要

再生可能エネルギーは、あと5年間で急に伸びることはないだろう。政府も太陽光発電の次に、風力発電を導入し始めるなど、いろいろ考えている。太陽光発電だけを導入しようとする事自体を変えないといけない時期に来ている。一つの考え方に固執すること自体が苦しくなってくるのではないかと思う。再生可能エネルギーの何をどう使うのか、組み合わせていかないといけない。

LEDの進捗を管理できるようなスタイルを考えないと、あと5年間での目標達成は難しいと思う。

公用車を電動車に更新していくとのことだが、買替の時期が来ないと変えられないことが、数値が上がらない要因ではないかと思う。うまくいかない原因を探り、それに対応できるように考えてもらいたい。

3 令和7年度取組について

研修で、エネルギー庁で出されているエネルギー関係の政策など、概略を説明し、そこからきっちりと理解してもらう必要があると思う。

研修を継続してやっていくと、マンネリ感や新鮮味がなくなり、動機づけの部分が薄れていくことは、重要視していく必要があると思う。世の中の色々な変化を常に伝えることはもちろんのこと、皆さんの関心がある他県の取組について伝えることも、見せ方の一つである。色々な比較ができると思うので、視野を広げていくことが非常に大切である。県だけでなく、海外の取組など、環境問題の情報は多岐にわたるので、新しく、新鮮味のある情報を、研修や会議などで日常的に伝えてもらいたい。

令和7年度の目標は削減率4.9%となっているが、令和6年度時点で自動車と液体燃料は、すでに目標を達成している。液体燃料から気体燃料への切り替えなど、どう捉えて、今後の目標をどうするのか、考え方の整理もしないといけないと思う。

| | |
|-------|---|
| 評価の概要 | <p>DXが進むと電力消費量は増加し、それに加えて、酷暑など異常気象が続くと、さらに増加となる。行政として、ある程度ビジョンを持っておく必要があると思う。今年のような酷暑が続く中でどう対応するのか、モデルのような形で、実態を把握してデータを残しておくの良いだろう。</p> <p>温室効果ガスの削減という目標の中で色々なことをやって、効果も毎年出ている。しかし、部局間での格差が気になる。数字も大事だが、県庁全体で対応していくという姿勢を強めていったら、数字以上に効果があるのではないかと思う。お金があればすぐに改善できるものもあるが、そうではないところの意識の改革というものを、部局間で格差のないような形でやってもらいたい。</p> |
|-------|---|